

安全データシート(SDS)

整理番号 SDS-001Rev.3

作成日 2017年12月1日

1. 製品及び会社情報

- ◆製品の名称 鋼製突合せ及び差込み溶接式管継手（炭素鋼、合金鋼及びステンレス鋼）
  - ・JIS B 2309 一般配管用ステンレス鋼製突合せ溶接式管継手
  - ・JIS B 2311 一般配管用鋼製突合せ溶接式管継手
  - ・JIS B 2312 配管用鋼製突合せ溶接式管継手
  - ・JIS B 2313 配管用鋼板製突合せ溶接式管継手
  - ・JIS B 2316 配管用鋼製差込み溶接式管継手
- ◆会社名 株式会社ベンカン機工
- ◆住所 〒379-2305 群馬県太田市六千石町5-1
- ◆担当部門 技術品質保証室
- ◆電話番号 0277-78-4111
- ◆FAX番号 0277-78-4081

2. 危険有害性の情報

◆GHS分類\*1

有害性項目	有害性区分	危険有害性情報
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	区分2B	眼への刺激
呼吸器感作性	区分1	吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ
皮膚感作性	区分1	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	区分2	遺伝性疾患のおそれの疑い
発がん性	区分2	発がんのおそれの疑い
生殖毒性	区分1B	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1 区分2 区分3	呼吸器、腎臓の障害 全身毒性の障害のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分1 区分2	長期にわたる又は反復暴露による呼吸器系、神経系の 障害（呼吸器、肺、神経系、肝臓）
水生環境有害性(慢性)	区分4	長期的影響により水生生物に有害のおそれ

\*1 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS)

- ◇注意書き
  - ・粉塵を吸入しないこと。
  - ・適切な保護具を着用すること。
  - ・取扱い後はうがい、手洗いをすること。
  - ・環境への放出を避けること。

◇絵表示



### 3. 組成及び成分情報

- ◆化学物質/混合物の区分 混合物（鉄を主成分とした合金鋼）
- ◆製品の化学特性 化学的に安定な固体物質
- ◆主な成分

成分	記号	含有量 (wt%)	CAS番号	化管法*1 政令番号	安衛法*2 政令番号
鉄	Fe	残量	7439-89-6	—	—
ケイ素	Si	5.0以下	7440-21-3	—	—
マンガン	Mn	10以下	7439-96-5	1種 412	550
クロム	Cr	30以下	7440-47-3	1種 87	142
ニッケル	Ni	30以下	7440-02-0	1種 308	418
モリブデン	Mo	10以下	7439-98-7	1種 453	603
銅	Cu	5.0以下	7440-50-8	—	379
アルミニウム	Al	5.0以下	7429-90-5	—	—
タングステン	W	1.0以下	7440-33-7	—	337
コバルト	Co	1.0以下	7440-48-4	1種 132	172
ニオブ	Nb	1.0以下	7440-03-1	—	—
チタン	Ti	1.0以下	7440-32-6	—	—

◇注1) 成分含有量は、上表の範囲において規格により異なる。

◇注2) 上記の主要成分の他に、微量元素を含むものがある。

\*1 化学物質排出把握管理促進法

\*2 労働安全衛生法

### 4. 応急処置

製品の加工等により発生した粉塵、ヒュームを吸入した場合や飲み込んだ場合、また、粉塵、ヒュームが皮膚に付着した場合は、下記に示す応急措置の後、必要に応じて医師の診断又は手当てを受けること。

- ◆吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、吸入しやすい姿勢で休息させる。
- ◆皮膚に付着した場合 速やかに多量の水と石鹼で洗う。
- ◆眼に入った場合 粉塵等が眼に入ったら、直ちに清浄な水で洗眼する。
- ◆飲み込んだ場合 水で口の中をよく洗浄する。
- ◆その他 製品切断面、切削屑等で皮膚を傷つけた場合は、傷口を清潔に保つ。

### 5. 火災時の措置

製品のままでは不燃性（固体）であり、周辺の火災時にも水、消火器による消火を行っても問題ない。

### 6. 漏出時の措置

製品は固体であり漏出することはないが、加工等により発生した粉塵、ヒュームは下記に示す措置を行うこと。

- ◆人体に対する注意事項 適切な保護具を使用し、粉塵、ヒュームの吸入、眼への侵入を防ぐこと。
- ◆保護具及び緊急時措置 8項「暴露防止及び保護措置」の保護具を参照のこと。
- ◆環境に対する注意事項 加工等により発生した粉塵類は、速やかに回収し漏出を防止すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### ◆取扱い

#### ◇技術的対策

- ・製品の加工等により粉塵、ヒュームが発生する場合は、保護具を着用すること。また、必要な局所排気又は全体排気を行うこと。

#### ◇安全注意事項

- ・重量物や形状的に安定しない場合があるため、転倒、荷崩れ、落下に注意すること。
- ・製品の切断端面及び切削屑等は、「バリ」、「カエリ」などにより皮膚を傷つける場合があるため注意すること。
- ・溶接、溶断等にもなうアークは、火傷を起こす場合があるため注意をすること。

### ◆保管

#### ◇安全な保管条件

- ・不必要な水濡れ、酸、アルカリとの接触、急激な温度変化や湿度の高い場所を避けて保管すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

製品は固体であるため、暴露防止及び保護措置に関する有用な情報は無いが、加工にともない粉塵、ヒューム等が発生するので下記に示す措置を行うこと。

### ◆許容濃度

成分	記号	許容濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
鉄	Fe	—
ケイ素	Si	—
マンガン	Mn	0.2
クロム	Cr	0.5
ニッケル	Ni	1
モリブデン	Mo	—
銅	Cu	—
アルミニウム	Al	—
タングステン	W	—
コバルト	Co	0.05

◇注1) 「NITE HP 化学物質総合情報提供システム/許容濃度の勧告(2013) 日本産業衛生学会」による。

◇注2) 表中の“—”は、区分外又は分類できないことを意味する。

### ◆設備対策

粉塵、ヒューム等が発生する場合、適切な換気対策を実施し作業環境を確保すること。

### ◆保護具

粉塵、ヒューム等が発生する場合、適切な呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣、安全靴等を使用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

### ◆形状/色など

管状の固体/黒灰色又は銀白色

### ◆臭い

金属臭

### ◆融点

1370℃以上

### ◆比重(相対密度)

7~9 g/cm<sup>3</sup>

### ◆溶解度

水に不溶

## 10. 安定性及び反応性

- ◆安定性 一般の環境下では安定している。
- ◆危険有害反応性 特になし
- ◆避けるべき条件 特になし
- ◆危険有害な分解生成物 溶接、溶断などの加工時に発生するヒューム中に金属化合物が含まれる可能性がある。

## 11. 有害性情報

有害性項目	Fe	Si	Mn	Cr	Ni	Mo	Cu	Al	W	Co
急性毒性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	—	—	区分3	—	—	—	—	—	—	—
眼に対する重篤な損傷 呼吸器刺激性又は皮膚刺激性	—	区分2B	区分2B	区分2B	—	—	—	—	区分2B	—
呼吸器感作性又は皮膚感作性	—	—	—	区分1	区分1	—	—	—	—	区分1
生殖細胞変異原性	—	—	—	区分2	—	—	—	—	—	—
発がん性	—	—	—	—	区分2	—	—	—	—	区分2
生殖毒性	—	—	区分1B	—	—	—	—	—	—	区分2
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	—	—	区分1	区分2,3	区分1	区分3	区分3	—	—	区分3
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	—	—	区分1	—	区分1	—	区分1	区分1	—	区分1
吸引性呼吸器有害性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注1) 「NITE HP GHS分類結果表示/化学物質総合情報提供システムによる。

注2) 表中の“—”は、区分外又は分類できないことを意味する。

## 12. 環境影響情報

有害性項目	Fe	Si	Mn	Cr	Ni	Mo	Cu	Al	W	Co
水性環境有害性(急性)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水性環境有害性(慢性)	—	—	区分4	—	区分4	—	区分4	区分4	—	区分4

注1) 「NITE HP GHS分類結果表示/化学物質総合情報提供システムによる。

注2) 表中の“—”は、区分外又は分類できないことを意味する。

## 13. 廃棄上の注意

- ◆残余物を廃棄する場合は、廃棄法に従って適切に処分すること。
- ◆溶接作業で発生するスラグ、ヒューム中には六価クロム化合物が含まれる場合があるので、環境基準を超える場合には廃棄法に従って適切に処分すること。

## 14. 輸送上の注意

- ◆輸送に関する国際規制対象物質に該当しない。

## 15. 適用法令

- ◆化学物質排出把握管理促進法 第1種指定化学物質
- ◆労働安全衛生法 第57条
- ◆廃棄物の処理及び清掃に関する法律

## 16. その他の情報

### 参考資料等

- ・ **GHS** 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針  
(2012年6月 一般社団法人 日本化学工業会)
- ・ **GHS** 対応一化管法・安衛法におけるラベル表示・**SDS**提供制度  
(平成24年10月 経済産業省、厚生労働省)
- ・ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) ホームページ
- ・ 混合物分類判定システム (経済産業省)
- ・ 許容濃度の勧告 (2013) 日本産業衛生学会
- ・ 環境省ホームページ

本データシートは、**JIS Z 7253-2012**「**GHS**に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」(以下**JIS**という)に準じて作成されており、用語の定義は**JIS**に従っています。  
本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、取扱事業者に提供するものであり、製品の安全を保証するものではありません。